

JCA

Japan Communication Association (JCA) Newsletter 日本コミュニケーション学会ニュースレター

NEWS

118 2018.6

CONTENTS

1. 第48回年次大会実行委員長挨拶 1	5. 広報局便り12
2. 2017年度第2回理事会報告 3	6. 支部ニュース13
3. 学術局報告 6	支部ニュース：北海道支部13
第48回年次大会について 6	支部ニュース：東北支部13
ジャーナルに関するお知らせ 7	支部ニュース：中部支部14
2017年度 ジャーナル掲載論文 8	支部ニュース：中国・四国支部14
学会賞の選考結果について 9	支部ニュース：九州支部15
4. 事務局報告10	7. メールアドレス登録のお願い16
		8. 編集後記16

巻頭言

コミュニティの虚ろなコミュニケーション

北海道支部長・第48回年次大会実行委員長 長谷川聡

私はコミュニケーション研究者ではなく、元言語療法士で、今は地域福祉とコミュニケーションの実践家として、大学で教えながら、自分の居住地域の地域福祉活動を行っている。

そんな教育と福祉実践の活動をしながら、今の地域社会と人々の暮らしを見ていると、情報と言語の氾濫の中で、これに呑みこまれた人々の自己中心的言語使用が進み、飛び交うことばがとて虚ろになっていることに気づく。

おぼろげな記憶をたどれば、大学で大学生を「学生」と呼ばずに「生徒」と言うようになったのが、この10年か15年くらいだろうか。その頃、当の大学生たちと街の人たちに私はよく「大学生は学生で、生徒ではありません」と言っていた。近頃はもう諦めて言っていない。学生諸君には申し訳ないが、ことばに合わせるかのように「学生の生徒化」は進んでいるように思える。最近は教職員や事務職員の中にもそういう人がいる。そもそも自分が「教員」なのか「教官」なのかも区別できない教職員もいて、自身を呼び間違えている人もいる。

大学で行われる教育活動も「授業」と言うようになった。さすがに教職員たちはまだ区別しているが、学生（生徒？）たちはすでに「講義、演習、実習、・・・」の教授学習活動の形態は区別できなくなっていて、どれも皆「授業」である。

彼らには共通の論理がある。「そんなことはどうでも良い」と。

私のコミュニケーション実践活動のフィールドは、医療と福祉を切り口とした「地域」である。その主役・主体は住民、行政職員、専門家（専門職業人）である。この現場でもことばが虚ろな姿で漂っている。

そもそも「地域」ということばの意味理解が曖昧だったり、使う人の立場や役割意識によって異なったりする。役人にとってそれは行政区域のことであるが、住民にとっては日常生活圏のことだったりする。「地域連携」ということばが流行りだが、これを住民は「地域と連携」することと思っているが、専門家集団は「地域で連携」するという意味で使っている。前者は行政・専門家と住民の協力協働を思い、後者は同一地域内の専門家同士が連携協力することを思っている。これを指摘すると、住民も専門家もひどく驚き、行政関係者は「両方の意味で使ってほしい」と言う。三者の思いはすれ違う。

住民や介護サービス利用者にとっては、介護老人福祉施設も介護老人保健施設も、あるいはそれ以外の介護関連施設も含めて入所施設はすべて「老人ホーム」である。介護老人福祉施設は福祉施設だが、介護老人保健施設は医療施設であることなど、ほとんどの人が知らない。特別養護老人ホームと介護老人福祉施設は同義語である。グループホームとケアハウスは要件を満たした正規の介護保険施設だが、グループハウスやケアホームと名乗る施設は無認可施設である。さらに、ここまで登場した認可施設は厚生労働省の所管であるが、サービス付高齢者住宅は国土交通省の所管である。後者について、しばしば「国がやっている高齢者住宅を探している」と相談を受ける。しかし「国がやっている（国営）」は一つもない。また「サービス付」のサービス内容は見守りと相談だけなのだが、地域の人たちはそれぞれに「期待するサービス」をイメージしている。実際、この二つのサービス（必須要件）以外の「嬉しい（かもしれない）サービス」（オプション）が提供されている住宅もあるので、現実はずっとやさしい。

しかし、そんな区別は皆知らない。彼らにも共通の論理がある。「難しくって」「いろいろありすぎて」と。専門家や学生でも混乱するくらいだから仕方ないと言えば、仕方ないのだが。

哲学者だったか文学者だったか、誰が言ったが忘れたが、「ことばの曖昧さは精神の曖昧さ」ということを言った人がいる。Fake news がメディアの話題である。その流通を支えているのが SNS を基盤にした「お友だちコミュニティ」とも言われている。不確かな内容について、事実確認もないままに、同じ言葉を使っていれば同じ意味を伝えあっていると意識下で思いこんでいる人たちがいる。学生時代に社会言語学で習った「民間語源」とは、こういうところから始まるのかと、日々その現場を見ている感がある。

大学でも地域社会でも、虚ろな人間関係の中でソーシャルセーフネットぎりぎりのところで人もことばも漂っている。日本コミュニケーション学会の会員である私たちには、それぞれの持ち場でやるべきことがたくさんあるように思う。

- ※ 本稿は 2017 年 6 月に公開された JCA 北海道支部 News, No23 「支部長からのご挨拶」に加筆修正して掲載しています。
- ※ 第 48 回年次大会札幌大会のテーマは「コミュニケーションとコミュニティ」です。これにちなんだ原稿と思い本講を再掲いたしました。

2017 年度 第 2 回理事会報告

2018年3月24日(土) 13:00 から2017年度第2回理事会が東京駅前サピアタワー9階の「関西大学東京センター」にて開催された。18名の理事(委任状2名を含む)の出席により理事会は成立した。

【会長挨拶】

今年度は事務局の移管があったが、スムーズに行うことができている。年次大会について今年は北海道で開催をするが、今後みなさまのお知恵をかりながら2~3年分の大会開催の候補地も決めていきたい。来年度については東京での候補地をさがしていただいている。また、学会50周年を迎えるにあたり、その企画も立てて行きたい。引き続きご協力をお願いしたい。

【報告事項】

【1】第48回年次大会

1. 学術局(野中)

6月9、10日に札幌医学技術福祉歯科専門学校において年次大会が行われる。現在プログラムとウェブサイトの準備をしている。

2. 会場担当(長谷川)

学術講演、会場準備、懇親会の準備が進んでいる。

【2】各局および担当理事報告

1. 事務局

(1) 入退会者および会費納入報告

2018年3月現在の会員全体数と内訳について以下のように報告された。また、入退会者についての報告がされた。

(一般会員:359名、学生会員:16名、準会員:2名、計:377名)

(2) 支部助成金について

支部助成金申請は早めをお願いしたい旨報告された。

2. 学術局

(1) ジャーナル関連(坂井)

・日本コミュニケーション研究 第46巻 第2号 発行準備状況

2017年度年次大会学術講演論文(鈴木謙介先生)1本、研究論文3本、以上4本の初校校正中(2018年5月31日発行予定)

・日本コミュニケーション研究 第47巻 第1号 投稿論文10本受理(2018年11月30日発行予定)査読委員20名(ゲスト1名含む)による投稿論文10本審査中(5月中旬結果通知予定)

・日本コミュニケーション研究 第47巻 第2号 投稿論文募集開始(2018年7月31日締め切り)

3. 広報局

(1) ニュースレター117号の発行と118号の発行予定

ニュースレター117号(2月)を発行した。次号118号(6月号)は5月末日までに発行予定。4月9日(月)原稿依頼、4月23日(月)原稿締め切り予定。

(2) 他学会への年次大会案内送付について

大会チラシの完成後、2018年4月上旬に年次大会の案内を出す予定

異文化教育学会、多文化関係学会、日本マス・コミュニケーション学会表象文化論学会、国際ビジネスコミュニケーション学会、映画英語教育学会、外国語教育メディア学会、大学英語教育学会、日本ディベート協会、SIETAR JAPAN、日本語用論学会。

(3) 第48回年次大会の広告・ブース出展企業について

本年度の協力企業各社との交渉の経過が報告された。

(4) Web 関連

以下が Web に掲載されたことが報告された。

- ・「NHK 番組アーカイブス学術利用トライアル」2018年度第2回募集について（掲載日2018年1月17日）
- ・JCA ニュースレター（117号）（掲載日2018年1月31日）

【3】各支部報告

各支部より報告が行われた（内容は支部ニュースを参照）。

【審議事項】

【1】第48回年次大会関係

(1) 論文査読

査読結果が報告された。発表論文9本、パネル5つが採択された。

(2) プログラム関係

大会プログラムとスケジュールが審議され承認された。

(3) 大会参加の Web 申し込み、宣伝、取材への対応、プログラムや総会はがき等の送付方法などが確認された。

【2】各局関係

1. 事務局

(1) 理事の任期

理事の残任期間について審議され、そのルールが以下のように決まった。

1. 任期途中で交代したものは、残任期間その職務を遂行する。
2. 残任期間は任期に数えない。

(2) 2018年度の業務委託契約について

2018年度の業務委託契約について、「業務委託契約書」・「覚書」、「算定基準書」について検討され、一点について確認のうえ、契約を進めることが決まった。

(3) 2018年度予算について

2018年度予算についての報告後、経費削減の提案があり、継続審議となった。

(4) 業務委託について

マイページの機能について審議され、利用をする方向で検討を進めることが決まった。

2. 学術局

(1) 学会賞

次の論文の学会賞受賞が決まった。学会賞・著書の部は該当なし。

論文の部：山口生史『高齢者介護施設職員間の情報共有と介護の質の認識との因果関係—交互遅延効果モデル分析—』

(2) ジャーナルの電子化について

会員のメリットを守ったうえで将来的にジャーナルの完全電子化の方向で動くことが決まった。

3. 広報局

(1) Web 関連

HP の改修について、費用と必要機能などが検討され、デザインに重点を置いて改修を行う方向性が決まった。

【3】その他

1. 今後の年次大会会場について

2019 年度の年次大会について、東京のいくつかの会場があげられ、費用や会場確保の時期などの観点から審議された。継続して会場候補を検討することになった。

【4】次回理事会開催日時・会場

6月8日（金）14:00 より、札幌医学技術福祉歯科専門学校にて開催予定。

学術局報告

第48回年次大会について

第48回年次大会は、2018年6月9日、10日の二日間、長谷川聡実行委員長のもと、札幌市の札幌医学技術福祉歯科専門学校にて開催されます。大会の成功に向けて、現在順調に準備が進められています。学術局担当理事で3月に大会校を視察してまいりました。3月に街なかに雪が積もっている光景は、札幌の冬だと分かっているにもかかわらず、今回の大会に使用させていただく建物は、数年前にできたばかりで清潔感に溢れており、素晴らしい環境です。長谷川先生を筆頭に北海道の委員の先生方、ならびに札幌医学技術福祉歯科専門学校の織田なおみ先生、そして昨年度まで同校で勤務されていた平野啓介先生にはご尽力くださいまして心より感謝申し上げます。

さて、今年のテーマは「コミュニケーションとコミュニティ」です。この年次大会のために全国から集まる研究者の皆様が大会校札幌を構成するいくつものコミュニティを現地だからこそ垣間見ることができる絶好の機会です。コミュニケーションを通して我々が生成する現実をコミュニティという切り口で体験しましょう。言葉、習慣、伝統、振る舞いなど、共文化としてのコミュニティをいくつも発見できる大会となりそうです。

今年の学術講演は北海道医療大学教授であり浦河べてるの家創設者でいらっしゃる向谷地生良先生をお迎えし、「幻聴さん、いらっしゃい！—私の観る世界・生きる世界—」と題して学術講演をしていただきます。幻聴が生じる瞬間など、めったにお聞きすることのできない話が皆さんを待っています。お見逃しなく！また、今年も質の高い研究発表に加え、コミュニケーション教育研究会パネル、学術局セッション、特別企画といった企画パネル、そして興味深いパネルディスカッションもご用意しております。詳しくは大会プログラムをご覧ください。

ただ、個人の発表が今年も大幅に減少しました。この傾向はここ数年で顕著です。北海道はアクセスという点では東京ほど容易ではないかもしれませんが、滅多に行かないから価値がある時間となるはずで、懇親会も今年は長谷川先生が新たな試みとして、札幌の居酒屋で輪になってみんなで食事をするスタイルを提案されています。雰囲気と言い食事と言い、東京では絶対に味わえない空間が待っています。新しい研究による知的刺激のみならず、美味しい空気／食事、そして非日常的空間を味わえる今年の年次大会には是非ご参加くださいまして、次の発表につなげていただけますようお願いいたします。特に教え子である学生さんたちに、座学では味わえないダイナミックな学術空間を体験してもらいたい素晴らしい機会です。ゼミ旅行の一環として、また大学院生の刺激の場として是非多くの方をお誘いあわせの上お越しください。

たくさんの方々の皆様のお越しを理事一同心よりお待ちしております。

ジャーナルに関するお知らせ

現在『日本コミュニケーション研究』(Japanese Journal of Communication Studies)の第46巻2号の編集がほぼ終了し発行に向けた最終準備をしています。今回の学会誌には3本の研究論文と2017年度年次大会での基調講演者の鈴木謙介氏の論考が掲載されます。5月末までには皆様のもとにお届けできると思われまますので少々お待ちください。

現在は、第47巻1号の締め切りが1月末に終了し、10本の論文が投稿されました。こちらは11月末の発行を目指し、査読作業が順調に進められ審査結果の取りまとめが現在行われています。また、第47巻2号(2019年5月末発行予定)への投稿論文を募集中です。締め切りは7月末日ですので是非皆様の研究結果を論文としてご投稿ください。投稿方法は、ワード等で作成されたファイルを指定メールアドレスに添付して送付してください。送付の際には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、以上3つのファイルを添付してください。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。

送付の際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

To: [journal@\[をを入れる\]caj1971.com](mailto:journal@[をを入れる]caj1971.com)
CC: [jisakai@\[をを入れる\]ed.tokyo-fukushi.ac.jp](mailto:jisakai@[をを入れる]ed.tokyo-fukushi.ac.jp)

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の坂井(jisakai@[をを入れる]ed.tokyo-fukushi.ac.jp)までご連絡下さい。迅速に対応いたします。

この4年間、ジャーナル担当として投稿者の皆さんに向けジャーナルに関する様々な話題に関し記載してきました。今回は本学会ジャーナルの『日本コミュニケーション研究』について書きます。『日本コミュニケーション研究』は、前身誌の『スピーチコミュニケーション教育』と『ヒューマンコミュニケーション研究』が統合された学術誌です。この2つの前身誌に共通していることは、「コミュニケーション」が人間間で生み出される意味を扱う点にあると一つには考えられます。そして、「コミュニケーション研究」の前に「日本」が付いているのは、閉鎖的な意味ではなく、「コミュニケーション研究」を日本から自律的に考え発信しより大きな共創のうねりを展開していこうとする試みや気概の表れだと思われてなりません。その意味でも、「日本コミュニケーション研究」は常に発展的であり、その責務は重いと感じます。

最後になりますが、『日本コミュニケーション研究』は日本におけるコミュニケーション研究の共創の中心地であり、皆さんの投稿がその場を進化させていく原動力となっています。今後も積極的なご投稿切にお待ちしています。

(副学術局長:ジャーナル担当 坂井二郎)

2017 年度ジャーナル 『日本コミュニケーション研究』 掲載論文

『日本コミュニケーション研究』 第46号 第1号 (平成29年)

研究論文:

SUZUKI Shinobu 「An Elaboration Likelihood Explanation for Structures of Written Arguments on a Controversial Issue」

MORIIZUMI Satoshi, McDERMOTT Virginia 「The Role of Narcissism and Face Concerns in Providing Comforting Messages—A Cross-Cultural Comparison between Japan and the United States—」

中野美香・麻生佑司「学生-教師間のコミュニケーションのツールとしての議論教育用ルーブリックの開発と活用」

トパチョールハサン「ハワイ「明治百年祭」イベント(1968年)と日系アメリカ人の記憶」

雨宮はるな「バロックの／とレトリック—ニコラス・レニエの『カーニバル・シーン』と17世紀の視覚—」

『日本コミュニケーション研究』 第46号 第2号 (平成29年)

特別企画:

鈴木謙介「ウェブ時代のコミュニケーション—〈多孔化〉した時代の中で—」

研究論文:

山口生史「高齢者介護施設におけるケアの質の認識と職員間の情報共有との因果関係」

埜幸枝「演じる身体／演じられる身体の虚構性をめぐって—『バリバラ』における障害者パフォーマンスを例に—」

雨宮はるな「『古典主義時代』の想像性におけるレトリック」

学会賞の選考結果について

去る2018年3月10日学会賞の選考委員会を開催し、『日本コミュニケーション研究』第46巻(2017年度)に掲載された論文のうち、山口生史先生が執筆なさった「高齢者介護施設職員間の情報共有と介護の質の認識との因果関係—交互遅延効果モデル分析—」を「学会賞(論文の部)」に値するとし、3月24日開催の理事会において審議の結果承認されました。山口先生、おめでとうございます!

審査委員会は、以下のように先生の論文を評価しました。

本論文は、組織コミュニケーションで扱われる場面として高齢者介護施設をとりあげ、組織コミュニケーションの重要なテーマである「情報共有の正確性とタイミング」と「介護の質」の因果関係について、交互遅延モデルという研究手法により明らかにしようとした大変意欲的な論文であります。特に、研究テーマもさることながら、これまでの横断的研究の限界であった因果関係について、時系列的にデータを収集するなど、大変精緻かつ労力がかかる大規模な横断的調査を実施され、興味深い結果が提示されています。本論文は組織コミュニケーションだけでなく、広くコミュニケーション学、特に社会科学的アプローチからの研究の発展に寄与する論文であり、高い評価に値します。また、データの収集・分析方法から結果の解釈・考察まで適切かつ説得的に記述されている点でも非の打ち所がなく、実証的コミュニケーション研究の範をなすレベルに達しています。

なお、6月9日年次大会総会におきまして、学会賞授与式を行いますので、ぜひご参加お願いいたします。

事務局報告

事務局からのご報告とお願い

1. 2018年度年会費の請求について

2018年度の年会費は7月上旬に請求する予定です。

2. 会費滞納による除名とジャーナル受け取りの権利について

過去3年間の会費がすべて未納の場合には、会則第12条および内規6に従い、特別な理由がない限り除名となります。また会則内規5に従い、前年度の会費が未納の場合にはジャーナルをお送りすることができませんのでご了承ください。

3. 会費納入状況の確認について

会費の納入状況が不明の場合には事務局までお問い合わせください。事務局のメールアドレスは、[jcom-post@\[@を入れる\]bunken.co.jp](mailto:jcom-post@[@を入れる]bunken.co.jp) です。納入状況をご確認の上、下記の郵便振替口座にお振込みいただくこともできます。なお、振込手数料は各自のご負担にてお願いいたします。

郵便振替口座番号 00160-2-603688

口座名義 日本コミュニケーション学会
(銀行口座からお振込の場合)

ゆうちょ銀行 (9900)

〇一九 (ゼロイチキュウ) 店 (019)

当座 0603688

ニホンコミュニケーションガッカイ

※クレジットカードでの会費支払いにも対応いたします。詳しくは事務局までお問い合わせください。

4. 学生会員・準会員登録申請について

学生会員(大学院生対象)、準会員(学部生対象)として登録するには、登録申請が毎年必要です。既会員の申請期限は7月末日です。申請書のフォームは学会ホームページの「会員各種手続き」よりダウンロードし、学生証等のコピーを添付して郵送で事務局までお送りください。事務局の住所は次の通りです。

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

日本コミュニケーション学会事務局

5. 会員情報変更の際の届出について

入会された時点と所属や住所、メールアドレスに変更がある方が多くいらっしゃいます。会員情報の更新には総会の出欠ハガキの通信欄をご利用いただき、変更のあった方は必ず最新情報を記入の上ご返送ください。また、JCAからいろいろな情報がメールによって配信されます。メールアドレスの変更の際は忘れずにご連絡ください。

6. 学会発刊物の購入申し込みと複写申し込みについて

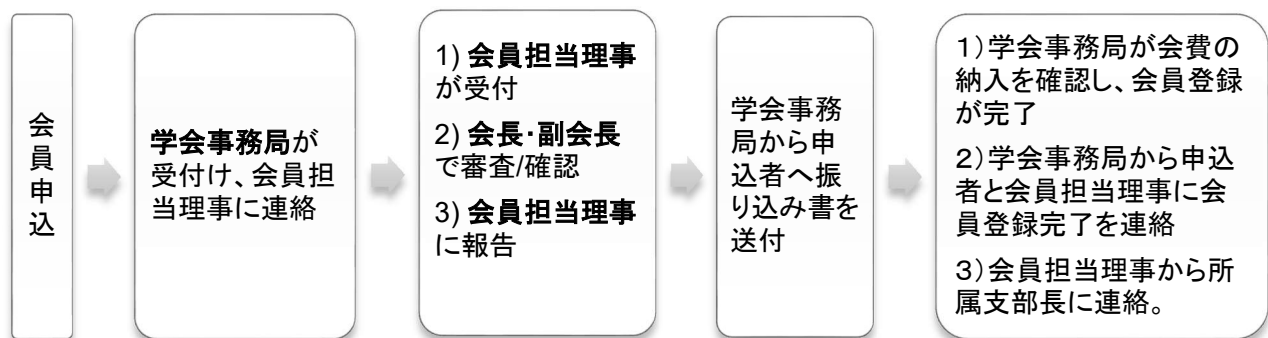
ジャーナルのバックナンバー、記念論文集、大会プロシーディングス等学会発刊物をお求めになりたい場合、事務局（メールアドレス：[jcom-post@\[@を入れる\]bunken.co.jp](mailto:jcom-post@[@を入れる]bunken.co.jp)）にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。なお、ジャーナルは J-Stage にも掲載しておりますので、そちらもご利用ください。

7. 支部活動および支部大会助成金申請について

支部助成金については12月初旬までに早めに申請してください。また、支部活動助成金と支部大会助成金の両方の申請予定がある場合はできるだけ同時に申請してください。

8. 新規会員の手続きについて

JCAでは入会を随時受け付けています。次のような流れで新規会員の手続きを行います。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。



広報局便り

広報局からのお知らせ

- ① ジャーナル投稿専用アドレスの運用について
学術局と連携し、ジャーナル専用のメールアドレス ([journal@\[@を入れる\]caj1971.com](mailto:journal@[@を入れる]caj1971.com)) で次号投稿の受付を行います。広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップしていくことにしております。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。
- ② 会員の皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報ください。ホームページにアップしたいと思います。
- ③ ホームページ (<http://www.caj1971.com>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸甚です。
- ④ 広報局では、JCA ニュースレターへのご寄稿を募集しております。次頁の要領をご覧頂き、奮ってご寄稿ください。

JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。宛先：田島慎朗 ([tajima-n@\[@を入れる\]kanda.kuis.ac.jp](mailto:tajima-n@[@を入れる]kanda.kuis.ac.jp))

- ① 著書紹介
会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文で 250～500 字程度の原稿を受け付けております。
- ② コラム：コミュニケーション教育
コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。
- ③ 書評
コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評を受け付けております。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。
- ④ NL 表紙の写真
ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。(写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。)

支部ニュース

北海道支部

(支部長 長谷川 聡)

JCA北海道支部、JACET北海道支部、HELES（北海道英語教育学会）の北海道内関連3学会による合同研究会を、2018年3月11日、札幌大谷大学セレスタ札幌キャンパスにて開催しました。50名を超える参加があり、この企画もすっかり定着しました。

当日は開会式に続いて、ゲストの高井次郎先生（名古屋大学、JCA会員）による基調講演「対人コミュニケーションとマスコミュニケーションの融合の時代」があり、昨今のSNS等によるコミュニケーションの現代的問題点の指摘が、中でも「maspersonal communication」という新しい概念の登場の解説が、コミュニケーション研究・教育関係者にも、また英語教育関係者にも大きな刺激となりました。

続いて英語教育関係の研究発表2題、「The Indirect Effects of Testing」と「タスクを用いた英語授業における学習者の意識」、そしてワークショップ2題、「小学校における英語活動の苦手意識は克服できます！」と

「Creating Effective Tests that Can Improve Students' English Proficiency—Theory and Practice—」が行われ、午後半日のプログラムが無事に終了しました。

今回は、近日開催されるJCA年次大会札幌大会準備のために来札されていた本会学術局の高井先生他5名の参加もあり、北海道支部の活動の一端を理事会役員の皆さまにもご覧いただく好機となりました。

この合同研究会をもって2017年度支部活動は終了し、3月29日に開かれた支部役員会（於・天使大学）では総会に向けた準備と、今春開催予定の本会年次大会の運営体制に関わる話し合い、そして今年度は役員改選期になることから次期体制についての意見交換が行われました。

なお2018年度支部総会の開催時期が年次大会札幌大会の時期に重なることから、年次大会支部セッションにおいて総会を開催することも最後の役員会で申し合わせました。特に支部の皆さまにはご承知いただき、万障お繰

り合わせの上、札幌大会へのご参加をお願いいたします。



東北支部

(支部長 川内 規会)

2017年度の東北支部定例研究会は、2018年3月3日に仙台市東北工業大学一番町ロビーで開催されました。研究発表は様々な方向からコミュニケーションをとらえた5件の発表で、充実したディスカッションにより盛会に終わりました。研究発表の詳細は、以下の通りです。

1. 「感動」という視点で比較する介護をテーマとする2つの映画」五十嵐紀子（新潟医療福祉大学）
2. 「老年看護実習における対人コミュニケーションと学習成果に関する評価指標の開発」石橋嘉一（青森中央学院大学）
3. 「日本の医療通訳配置の統一の見解から捉える東北地方の現状」川内規会（青森県立保健大学）
4. 「若者のおひとりさま行動について」宮曾根美香（東北工業大学）

5. 「子どもたちのいじめ問題とコミュニケーションとの関わりー地域・学校・家庭においてー」 小島正美 (NPO 地域情報モラルネットワーク)

2018年度の第19回JCA東北支部研究大会は、仙台市で開催が決定しています。交通の便のいい仙台ですので、様々な地域からたくさんの方々にお越しをいただきたいと願っております。日程等の詳細が決まり次第、東北支部のホームページに掲載しますので、ご確認ください。

また、2018年度は6月より支部役員が改選されます。新役員の先生方、どうぞよろしくお願い致します。



中部支部

(支部長 藤巻 光浩)

中部支部長として4年間を過ごしてきた。「長」といっても、「長」らしいリーダーシップを発揮したわけでもなく、運営委員会に身体を持って行っただけの記憶しかない。中部支部には、伝統ある「コミュニケーション研究者会議」もあり、JCAとは関係なく元からコミュニティがある。このコミュニティでは、常に企画について考えを巡らせていたり、事務組織がすぐに機能し始めるための「慣れ」があるのだと感じたことがある。そして何よりも顔の見える関係が、当然のごとく存在する。この意味で、私の「長」としての仕事というのは、会議を招集する程度のものでしかなかった。「外様」の私が、つつがなく支部長の仕事を終えることができたのは、中部支部のみなさまのおかげです。ありがとうございました。

さて、JCAという組織について考えるとき、大きな課題を一つ思いつく。大学院生の数だ。メジャーな学術領域とは違い、毎年大量の院生を生み出す「インフラ」が著しく少ないのだ。毎年のように大量の院生が学位を取り、職に就いていかなければ、この領域は先細りになるだろう。支部として根本的に何かができるわけではないが、院生の発表の場を意識的に設けたり、外部資金取得のためのワークショップや論文をブラッシュアップするための研究会を開催する機能を備えてもいいと思う。支部

という組織の役割を考えた時、すべてを備えたミニ中央を作るのではなく、支部に特有の特徴を生かしていくことも視野に入れてもいいのだと思った。



中国・四国支部

(支部長 脇 忠幸)

中国四国支部では、第21回支部大会を以下のように予定しております。

日時：平成30年11月24日(土) 13:00開始

場所：福山大学 宮地茂記念館 (福山駅北口を出てすぐ)

全体テーマ：地域を／で研究すること

特別講演：未定 ※地域社会に関わるご講演を予定

近年、私たち研究者／生活者にとっての日常は、まさに「真綿で首を締められる」という表現が当てはまるように思います。こうしたなか、中央から遠く離れたこの「中四国」という場所で、私たちは何をすべきであり、何ができるのでしょうか。世界中の人・モノと常時接続可能になった今なお、研究者／生活者にとって地理的な隔たりは大きな意味を持っているように思います。それは肯定的にも否定的にも捉えられるでしょうが、いずれの評価を下すにせよ、そこに今後の私たち自身の、そして中四国支部の在るべき姿が見えるのではないのでしょうか。

上記の新テーマにおける「地域」は、【地域社会】【地域性】【大都市圏の対立概念としての〈地方〉】を意味します。「地域」をフィールドや対象とした研究・活動に注目することによって、「地域」で研究することの意義を検討したいと考えております。

ぜひ、6月の北海道にてみなさまのご意見をお聞かせください。お待ちしております。

九州支部

(支部長 池田 理知子)

9月22日(土)に大分市にて第25回支部大会を開催いたします。大会実行委員長は、清水孝子先生です。大会テーマは「記憶の継承 Part IIーコミュニケーション学の視点からー」で、前年度の長崎大会での議論を引き継ぐ形になります。

今回は、「公害」「戦争」「記憶」を鍵語に対話を続けてきた4年間の集大成として、戦後のGHQによる検閲の時代に焦点を当てていきます。そのころのようなメディアを通して、どういった発信がなされていたのかが明らかになるはずです。具体的には、「大分ブランゲ文庫の会」の会長である白土康代氏の基調講演と、白土氏を含めた3人の登壇者によるパネルディスカッションを予定しています。この会は、占領期に大分県で発行され、検閲された雑誌・新聞などを調査・研究し、地域の先人たちの思いを伝えるという活動を続けています。自らも会のメンバーとして占領下の映画について研究を進めている清水先生にコーディネーターを務めてもらい、大分での検閲がどういったものだったのか、そしてそれがどういう意味をもっているのかといった議論が活発になされることと思います。

会場となる「ホルトホール大分」は、JR大分駅から歩いて2分の便利なところにあります。多くの方の参加をお待ちしております。また、九州支部以外の方でも、論文発表やパネルの企画を受け付けておりますので、ご一考いただければと思います。発表申し込みの締切は7月15日(日)です。詳しくは九州支部のHPをご覧ください。

連絡先

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

日本コミュニケーション学会事務局

Fax: 03-3368-2822

[jcom-post\[@を代入する\]bunken.co.jp](mailto:jcom-post[@を代入する]bunken.co.jp)<http://caj1971.com>

NL の電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニューズレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、107号より電子版に完全移行いたしました。当面はPDF版をHPに掲載する予定ですが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築してのメールマガジンの配信も視野に入れ、さらに検討を続けていきます。

つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にてメールアドレスの登録をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください）。今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価値の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

- ① 本学会 HP (<http://www.caj1971.com>) にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き (Membership)」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下「1.オンラインでWeb登録情報確認・変更、会費残高照会のページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。

* ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。

- 会員番号は、学会からの郵送物の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

編集後記

今年度をもって理事・支部長の任期を満了される先生方、今までどうもありがとうございました。

この号では、この学会、ひいては日本のコミュニケーション研究の将来に対する先行き不安を述べる文面が多かったように感じます。学術局からは年次大会への応募数の減少について、中部支部長の藤巻光浩先生からは大学院生を排出できない日本の大学機関の現状について、そして中国・四国支部長の脇忠幸先生からは地方でのコミュニケーション研究・教育についての言及がありました。今後、大学淘汰の時代に突入することを考えると、今後ますますこの問題は大きくなって、学会の存続にかかわるのだらうと思います。

北海道支部は長年他学会との合同研究会を開催してきており、この号にもその活動の様子をご報告いただいています。私も前年度の学術局パネルで関係学会との統廃合を模索できないか提案したように記憶しておりますが、日本でコミュニケーション研究を持続させていくためには、何らかの手を打たないといけないのかもしれないかもしれません。

広報局 ニューズレター担当 田島慎朗